

‘わんりい’ 記念展、無事終了しました

ご協力を心からお礼を申し上げます

当記念展は‘わんりい’としては日頃の活動フィールドを離れての、初めての都心での活動でした。会の皆様にとってはかなり遠方ですので足を運んでいただけるかどうかなどの心配もありました。展覧会を企画・開催するのは難しい事ではありません。が、自信と誇りを持って紹介できる展示であっても、催しの存在を知って会場に足を運んで頂くという課題があります。

今回は、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の他、‘わんりい’のこれまでの活動に関わりある陽光導報、レコードチャイナ、新華社のお力添えを頂けたこと、また、‘わんりい’メンバーや関係の皆様が会場に足を運んでくださったばかりでなく、ご自分が関わる活動や施設などでチラシ配布下さったり、送付くださったりなど一丸となつてのサポートも大きな力でした。

それら各方面のお力添えによって、会期5日間で来場者300人を超す盛会になり、活動25周年、倉石賞受賞の記念展にふさわしい催しになったことを報告できて喜んでおります。また中国僻地の、当時解放されたばかりでそれまで独自の文化と生活の中で生きてきた地域の女性たちの剪紙作品の素晴らしいさを予想以上の多数の方に知って感動頂けたことも展覧会の成果になりました。久々に太陽の光を見ることができた陝北剪紙もどんなにか喜んだことかと思ひます。

中国文化センターの会場は、予想外に広く、850mm



x 1065mmという大きな額でも普通サイズ程度にしか見えません。壁の長さに合わせて額数は、70枚を超え、展示剪紙作品は大小合せて600枚を



超えました。実際、多くの協力がなければ開催できない大きな展覧会となりました。充実して終了できたのは‘わんりい’メンバーたちの、日頃からの協力を惜しまないボランティア精神があればこそでしょう。

と同時に、広い会場と備品の額を無償で提供下さった上、PR効果満点の素晴らしいチラシデザインを作成下さった中国文化センターの協力へお礼を申し上げます。‘わんりい’は25年に亘る活動の数々でも常に各方面の温かな支援に恵まれて来ており本当に幸せな会だと感じます。

最後に、陝北地方の広大な風景や民間芸術にほれ込み、30年間という人生の大半を現地と関わり続けた木版画家・写真家である安徽財経大学元教授・周路先生の応援もお伝えします。先生が撮りためた写真を惜しげなく提供下さった他、ご自身が収集した剪紙作家三名(高鳳蓮、韓菊香、楊梅英)の窗花(窓花)のコレクションをお貸し下さった事により一層充実した展示内容になりました。剪紙展でありながら現地の人々や生活も皆さんに知って頂けたのは何よりでした。陝北をテーマに素晴らしい版画作品を多数制作されておりいつか展示される機会があるとよいですね。

展示作品を収納しながら、厳しい労働に明け暮れる日々を負けることなく、明るく逞しく命を繋いできた現地の人々の笑顔、そして黄土の大地を割ってうねるように湾曲しつつ悠々と流れる黄河を懐かしく思い浮かべています。

(田井光枝)